

## 真のリバイバル(使徒 13:1-12)

これから信者として残りの生涯を神のみこころに従って歩いていくことになります。その信者としていく道には、人、状況などによってさまざまな困難が待ち受けています。そこで多くの信者がその困難に負けてしまい、また戸惑ってしまう場合がよくありますが、信者がこれから歩む道にある困難に対しては、それを受け入れて、またそれを超えていく、そのような信者としての力を持って歩いていかないとはいけません。いちいちすべてに関わって、または是々非々をそこで考えたり、つまずいたりすることは、信者として望ましくないものなのです。いくら常識的に、また社会のルールから見たときにこれだあれだという評価があるかもしれませんが、信者はそのすべてを良くも悪くも受け入れていかないとはいけません。そして、それを超えていかないとはいけません。なぜかと言いますと、信者はほかの人と違って生きる理由、目的、目標が違うのです。人を生かすために私たちは召されて、そのために残りの生涯を歩いていくものですから、その目的の支障にならないように、妨げられることがないようにということを常に考えないといけません。なので、正しくない場合もあるし、私に損になる時もあるかもしれません。場合によっては無視されることもあるでしょう。誤解される時もあるかもしれません。しかし、そのひとつひとつに関わってはいけません。全部を受け入れる力を持っていないといけません。そして、超える力を持って人を生かす真のリバイバルにつながる光の道しるべを建てること、それを絶対目標にして進んでいかないとはいけません。信者の目標は何かと言いますと、世界中に絶対やぐらを建てて、それを道しるべにして、次の世代が、ほかの人がそれを見て、同じ道を進むことができるように光の道しるべを建てること、そこに絶対目標を持たないといけません。そのために祈る祈りを再創造の祈りと言います。絶対やぐらを建てて、光の道しるべを建てること、それが人を生かすことなので、人を生かすということは、いのちが与えられることであり、それは最初の創造の働きでないとはいえないし、それをはるかに勝る再創造の働きなのです。神様にしかできない働きであり、それを信者の私たちを通してなそうとしていらっしゃいます。なので、2025 年を初めとして、残りの生涯、私たちは再創造の祈りをささげる信者になりましょう。人を生かす、真のリバイバルにつながる光の道しるべを建てる祈りをささげていきましょう。

1. どんなことが起きても騙されずに御座の働き(バック)を信じて祈る。

そのために、その再創造の祈りはどのようにささげるべきなのかと言いますと、

第一に、いま申し上げましたように、絶対目標があるので、どんなことが起きてもそれに騙されないで、今現在、目に見えないけれども御座の働きがなされていること、神の御座が私たちのバックグラウンドであることを信じて祈ることです。

目の前には攻撃があるかもしれません。目の前にいろいろなトラブルや理不尽なことがあるかもしれませんが、しかし、そのときでも、目に見えないけれども、それをはるかに上回る御座が私たちのバックグラウンドであり、御座の働きがなされていることを信じないといけません。それを信じて祈ることです。

1) 霊的なことが先に起きることを信じて

つまり、目に見える何かということは、目に見えない霊的な世界の動きによって結果として現れるものだというを常に覚えていないといけません。だから私たちは祈るわけです。目の前に展開される、現れるさまざまなことに惑わされることなく、私たちは霊的なことにこだわり、そこを優先にして、それで祈るわけです。ダビデは死の影の谷を歩くようになりました。にもかかわらず、ダビデのバックグラウンドは神が御座であることを忘れていなかったのも、ダビデは祈っていました。主は私の牧場の羊飼いであり、私には乏しいことはありませんと。わかりますか。再創造の祈りというのは、まずは何が起きてもそれに巻き込まれないことです。だから、何が起きても、嫌なことがあっても、その瞬間も神の御座が私のバックであることを忘れてはいけません。神の御座が永遠にいつまでも、今この瞬間も私のバックになっていること、それを救われたと言います。なぜなのでしょう。神の御使いが私たちに仕えることになっ

ています。私たちが救われたことは、イエス・キリストと兄弟になったことなのです。私があなたの内側に、あなたが私の内側に。それをいのちと言います。三位一体の神様の中に招き入れられたことを救いと言います。神様を「アバ、父」と呼ぶことができる、神の子としてくださる霊をいただいているものなのです。だから、天使が私たちを見たときには、羨ましくて羨ましくてしょうがないのです。彼らはものすごい力を持っているけれども、三位一体の神様と一つになって、イエス様のことを兄貴と呼ぶような身分にはなっていません。それはキリストの十字架によって救われた神の子どもだけに許されているいのちの祝福なのです。だから、私たちのことを神の子ども、王である祭司と言われるわけです。イエス様と同じ名前が付いているものなのです。すごくないでしょうか。それほど私たちは尊い存在です。そのように神様に愛されてるものなので、尊い貴重な存在であることを忘れてはいけません。だからこそ、何が起きててもそれに巻き込まれたり惑わされたりするようなことがないように。普通の一般の感覚や一般の理論では説明できません。「なんでこういうことがあるのに心配しないの?」「なんでこういうことがあるのに怒らないの?」と思うかもしれません。私たちはそのルールを超えて、御座の祝福とともに歩くものなのです。世の中の人とは違う目標に向かって進んでいる者なのです。それを忘れないように。霊的なことが先に起きて、その結果、見えることとして現れるということを心に覚えましょう。

## 2) 神様の計画が成し遂げられることを信じて

そして、どのようなことが起きても神の計画が成し遂げられているんだと、神の計画は必ず成し遂げられます。100歳になっても子どもが授かりませんでした。でも、あなたを通して多くの国民になるよと神様はおっしゃる、到底なかなか理解できないのです。でも、神様がおっしゃったならば必ずその通りになります。初代教会の人々は、誰が見ても絶対不可能な条件、状況でした。ちっぽけな人ばかり集まってきました。しかし、彼らに向かってエルサレムから地の果てにまで私の証人となるとおっしゃったのでそれが神のことばであれば、今の状況がそれとどれほど反対の状況、不可能な状況であろうが、必ずその通りになるのです。それを私たちは信じるわけです。それを契約を握るというのです。義人は信仰によって生きるものなのです。その戦いをしないといけません。今までの常識や自分の限界や自分の理論、論理等々に振り回されてはいけません。神様の計画は必ず成し遂げられること信じて、ならば、今起きていることは当然なことであり、必然なことであり、絶対的なことなのです。見る目が変わります。そのように祈るわけです。

## 3) Heavenly Thronely Eternally の力が現れることを信じて

そして、そこに私たちが考えたときには、あれだこれだ不可能だと思うかもしれませんが、だから、私たちの何かではなくて Heavenly power、Thronely power、Eternally power というパワーが現れることを信じて祈るべきなのです。それが再創造の祈りのための大切な祈りです。道しるべをしっかりと建てる、絶対やぐらを建てること、それを目標にして、そのために私たちはまずこのような祈りをしないといけません。

## 2. 先に神の国の答えを受けることを信じて祈る。

そして、そのように祈っていくうちに、先に神の国の答えを受けることを信じて祈るべきです。

### 1) あらかじめ味わう-7つのやぐら

### 2) あらかじめ答えられる-7つの旅程

### 3) あらかじめ力を受ける-7つの道しるべ

どういう意味なのかというと、皆さんご存じのように、7つのやぐら、それは私たちがどれほど祝福された貴重な存在なのか、何を私たちを通して三位一体の神様がなさるのかということなのです。そして、そのために神様は私たちをどのように導かれるのかという内容です。御座の旅程なのです。私たちが歩くものではなくて、主とともに歩むことなのです。そして、その結果、神様が臨まれまして、この世界に絶対に必要などのような作品を残していくのかということ、つまり、御座の作品、永遠の作品、それを残していくわけです。そのことをあらかじめ見て、なるほどと確信するようになります。それがあらかじめ神の国の答えを見るという意味なのです。いま目の前にそれが展開されるわけではありませんが、祈りの中で

神のことばなので、必ずその通りになるということが見えてくるわけです。それを先にあらかじめ答えを握って進んでいくわけです。あらかじめ。それが再創造の祈りなのです。あらかじめ7つのやぐら。それが自分自身であり、自分を通してなさることを、祈りのうちに先に握って見るようになるのです。なるほど三位一体の神様が、御座の祝福と力をもって私を通して cvdip をなしていられるんだと。だから、私には3つの庭が備えられて、光の神殿としてこれから生きていくんだということをあらかじめ握るわけです。それを答えと言います。だから、そのために三位一体の神様が神の絶対計画、伝道という答えを用意してすべてを働かして益となる道を歩むようになるんだ。これから、まだ歩いていないのに自分が歩むべき道がどんな道なのかあらかじめわかるようになります。わかって生きるわけです。生涯の答えをもってその答えを伝える、そのような道のりを歩むようになります。礼拝が御座の祝福である、そのような礼拝の旅程を歩むようになります。礼拝をささげるたびに御座の光が照らされて、御座の祝福が現れる、そのような礼拝を通してこれからの旅程を歩むということがあらかじめわかって礼拝に臨むようになるわけです。そして、それを通してカルバリの山をはじめ、オリーブ山、マルコのタラップンの体験という道しるべを建てて、それがアンティオキ教会、宣教地に、ローマの目の前の地域に、ローマの方にその道しるべをこれから建てていくようになるのです。それをそうなる前にあらかじめ見て、握って、祈って進んでいくようになるわけです。だから、再創造の祈り、そして光の道しるべを建てていく歩みというのは、あらかじめ神の国が私たちに臨まれまして、その神の国の答えを先に受けて歩いていくものなのです。それを祈るわけです。だから、777 というのは数字の問題ではなくて、それをずっと祈っていくことです。この間も申し上げましたように、一日朝昼夜、定期的に本当に平安のうちに幸せにまた無理なく祈っていく、それを習慣にしていくことが大切であり、一日1回はその内容をもって集中することが求められます。そのように祈っていくうちに、先に答えられるわけです。私の内側に神の国が先に臨まれるわけです。777 が本当に自分のものになることを神の国というわけです。ただの暗記ではなくて。今までは何を食べるか、飲むか、どうすりゃいいかということばかりだったのに、心の傷を抱えていつもそれに影響を受けていたのに、それが去っていくようになります。777 に満たされて、それが刻印されて、根を下ろすことになるのです。それを神の国と言います。そういう祈りをしていくわけです。

3. 神の国のことがなされて、誰も止められない光の道しるべを建てることを祈る。

1) カルバリ山、オリーブ山、マルコのタラップンの道しるべを建てて

そのように祈っていきますと、本格的に何を祈るかと言いますと、その神の国のことがなされるように。

それをいちばん最初に体験したのがマルコのタラップンでした。マルコのタラップンで、オリーブ山で神の国が彼らに刻印されて、マルコのタラップンで祈っていました。すると、彼らがいる現場に、彼らが聖霊に満たされると同時に、現場の暗闇が砕かれていのちの門が開かれるようになることを体験したわけです。それが神の国のことがなされるということです。それが世界中で行われることを信じて祈っていくわけです。神の国のことがなされて、誰も止められない光の道しるべを建てることを祈っていくこと、これが再創造の祈りなのです。つまり、神様が造られたこの地球が、悪魔の誘惑によってアダムとエバが罪を犯して、地球が墮落したものに変わりました。それを再創造なさるわけです。キリスト・イエスの光によって再創造なさるわけです。救いの働きを通して。それを祈るわけです。そのために各地に道しるべが建つように祈ることです。カルバリ山の道しるべ、すべてを完了した、オリーブ山の道しるべ、神の国のこと、御座の祝福とともに地の果てにまでというミッションが与えられているわけです。その道しるべをもってマルコのタラップンで使徒2:1-11にあるように神の国のことがなされる体験、その道しるべをひとりひとりに建てるわけです。個人的に建てていくわけです。

2) 完璧な聖霊の導きに従い絶対弟子を見つけ絶対やぐらを建てる光の道しるべに従い

そして、そのような答えをもって今日の聖書のように完璧な聖霊の導きに従って、道しるべを建てるということはどういうことなのかというと、カルバリ山、オリーブ山、マルコのタラップンの体験、この祝福がその通りに現れるために備えられている弟子がいるわけです。それを絶対弟子と言います。その絶対弟子を見つけて、その絶対弟子がカルバリ山、オリーブ山、マルコのタラップンの体験ができるように建てていくこと、これを絶対やぐらを建てるというわけです。となると、そこに行った伝道者が離れても、その人を通してまたわざが現れることになります。それが再創造の働き、光の道しるべを建てるということ

なのです。使徒 14：15-26 を見ますと、パウロが石で殴られて、みな死んだと思うほど倒れてしまいました。それでまだ死んではいけない時期だったので、パウロはそういう状況で立ち上がって、石を投げられた方にまた入っていたのです。普通は考えられないでしょう。その理由は 1 つだけです。そこにテモテという神様が備えられた絶対弟子がいたからです。それを最後までちゃんと処理できてないということなので、つまり、パウロは自分の命よりも絶対弟子にすべてのフォーカスを合わせていました。それが道しるべを建てていくということなのです。これをこれから祈るのです。あらゆるところでこの絶対弟子を見つけること、その絶対弟子さえあれば彼を整えると神様が備えられた者なので必ず絶対やぐらと建つわけです。すべての地域を伝道者が全部回るわけにはいきません。神様のやり方は絶対弟子を備えて、世界福音化＝絶対弟子なので、世界福音化が命より大切な神の契約に間違いなければ、絶対弟子に対しては命も惜しまないですべてを全部ささげてという覚悟なのです。これが光の道しるべを建てるという意味、再創造の祈りの内容です。それをこれから祈っていくべきなのです。使徒 15：6-41 を見ますと、バルナバとパウロが喧嘩します。喧嘩はよくないでしょうけれども、このような喧嘩は望ましい喧嘩です。その喧嘩の理由は、パウロは絶対弟子というテーマは譲ることはできません。でも、バルナバは少し人間的な情けによって、これもいいんじゃないの。別に悪くありません。ただ絶対弟子に障られるようなことであれば譲れないのです。それほどパウロは絶対弟子にすべてを懸けていました。それを祈ることを再創造の祈りと言います。今これを聞きながら、それはそれほど大切な祈りなのか、とみな思うでしょうけれども、それは皆さんがそのような絶対弟子になっていないからなのです。だからいちばん最初の光の神殿の回復、その祈りから入っていかないとはいけません。皆さんがカルバリ山を本当に通った人であれば、皆さんの過去、現在、未来に対して何一つ問題になるものはあってはいけません。あるはずがないのです。すべてを完了したので。また自分の意見や主張、自分の理論、今までの経験、主義等々は恥ずかしくて言えません。私は十字架とともに死んだのです。皆さんがそんなにこだわって、頑固にこれだこれだと威張っているその皆さんのために十字架で死なれたわけです。なのに、なぜそんな自分にそんなにこだわるのでしょうか。自分の主義主張がまだカルバリ山を通っていないからです。イエス様がなぜ十字架で自分のために死なないといけないのか、その答えが出ていないのです。余計に時間が流れるのですが、私は本当に皆さんに全部言えないほど悪さをして生きてきました。本当に暗い道を通ってきました。それでイエス様がそのような自分のために十字架で死なれたということにずっと涙を流しながら感謝して、私のような悪ふざけな野郎どもの罪人がどこにいるのかと思っていました。すごいでしょ。これが間違いだったのです。今まで私が人には言えない、たとえば人を殺したかもしれません。人のものを盗んだかもしれません。暴行を働いたかもしれません。詐欺を働いたかもしれません。性的な犯罪を犯したかもしれません。だから、私のような罪人はいないだろう。こんなに汚い、汚れた、汚れた罪人を許してくださるなんて何と感謝でしょうか。そのためにイエス様が十字架で血を流されました。ありがとうございます。とんでもありません。そうだと思っていました。私のような汚れた者、汚された者がどこにいるのかではなくて、それ以上、100 万倍以上悪い者だったのです。私は。人殺しがそんなに悪い者なのでしょうか。私たちは悪魔の子ども、地獄の子どもだったのです。それを知らずに人殺しだったので私は罪人ですと、そこで済まそうとしてはいけません。キリストがなぜ十字架で死なないといけないのか。私の人殺しの罪を許すために... もちろん入っているのしょうがそんなものではありません。だから、みな宗教、倫理を超えることができないのです。キリストの十字架はそういうものではありません。だから、現場で姦淫の罪を犯している女の人を見て、誰も石を投げることはできないし権限もありません。人殺しと自分と何が違うのでしょうか。人殺しは人殺しだから、私は本当に悪い者だと思うでしょう。それも間違いなのです。本当に悪い者ではなくて、その 1 億倍以上悪い者なのに、人殺しで済まそうとしているのです。イエス・キリストは人殺しのために、姦淫の罪のために十字架で死なれたわけではありません。イエス・キリストの十字架はそれでないと絶対解決できない、あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であり、生まれながら御怒りを受けるべき子らとして生まれた者なので、それと人殺しと比べものになるのでしょうか。そういう希望のないものだったので、地獄の運命の子どもだったので、結果、人殺しという花を咲かせただけなのです。人殺しをいま擁護するつもりはありません。でも、それで済まそうとしてはいけません。だからみな外見で比べようとしているでしょう。だから現場で悩んでる人々見たときに、見方が違うのです。自分はそこまで精神的におかしくなっていなかったね。自分はそこまで依存症になった経験はないのに可哀想だね。何が違うのでしょうか。私に絶対キリストが必要であったように、依存者の彼も依存症が問題ではなくて、依存症が問題だと思っているから問題なのです。その人も悪魔の子どもだから問題ではない

でしょうか。だから、キリストでない希望はないのです。そういうふうになんて救われて、そのために私たちはこの世に存在する者なのです。そのことが世界中に正しく伝えられて、その光を照らし続けるためのやぐらを建てること、それが再創造の働きなのです。その光でなければ希望はありません。自分自身を見る目も、世界中を、日本の国々を見る目も変わらないといけません。カルバリ山を通っていないから、オリーブ山に登ることもできません。御座の祝福とかは興味ありません。とにかく今の問題の解決、それがどうのこうのしか興味がありません。カルバリ山を通っていないから。子どもに問題があるのでしょうか。むしろ皆さんに問題があると思いますよ。それを問題だと思って悩んでぐじゃぐじゃしている自分の方が問題ではないでしょうか。本当に自分はカルバリ山を通っていたのかどうか問いかけるべきではないでしょうか。何が問題でしょう。教会の中にもなぜいろいろな問題を抱えている人が来れないのかというと、私たちがそれをすべて問題だと思って変な目で見ると人々が来れないのです。私と違うから問題でしょうか。何が問題でしょう。精神病が問題でしょうか。精神病が問題だと思っているから問題です。カルバリ山を通らないといけません。イエスがキリストと確認できて、私たちの目が御座の祝福の方に向けないといけません。すべてが終わったので、その御座の祝福をもって残りの生涯、このいのちの光を照らす使命、ミッションの方に集中しないといけません。でも、それがなかなかできない。引っかかるものがあります。あまりにもまだ多いのです。これも問題、あれも問題。だからマルコのタラップンの体験は夢の夢の話になります。オリーブ山を通らないとマルコのタラップンはありません。皆さんにどういう問題があるのでしょうか。本当にそれが問題でしょうか。もしかしたらイエスがキリストという信仰に問題があるのではないのでしょうか。ひとりひとりにこのようなカルバリ山、オリーブ山、マルコのタラップンの光の道しるべを建てて、完璧な聖霊の導きに従い、各地において絶対弟子を建てていくこと。この絶対弟子より大切なものは、これから教会にとって、私たちにとってありません。この間、皆さんの祈り、献身によって依存症予防集中訓練が恵みのうちに終わり、日本の各地から来られた先生方がありがとうございましたという感謝のコメントいっぱい寄せてくださいました。その時も私たちは確認しました。教会が小さい教会であれ、大きい教会であれ、いま開拓を始めたばかりの教会であれ、教会は最初から地の果てにまで世界福音化を大前提にして召されたものなのです。だから、正しく絶対やぐら、絶対弟子、光の道しるべ、これを20年後ではなくて、今から祈っていかないとはいけません。皆さんは地の果てにまで、アフリカにも、日本の47都道府県、インドネシアにも南アメリカにも、この光の道しるべを建てることを目的にして召された教会です。でも、どれほど私たちはそれに対しての思いがあるのでしょうか。もちろん牧師の責任だと思います。牧師がそういう感覚がありませんので、日本の宣教師として来たので日本の宣教をしなきゃ。もちろん当たり前でしょうけれども、初代教会が召されたときから地の果てにまでとおっしゃったのです。マルコのタラップンにみな死ぬ覚悟でちっぽけな人間が集まっていたそのときから地の果てにまで。皆さんの頭の中にこの光の道しるべを建てる再創造の働き、もちろん私の近くでもそれが必要でしょうけれども、これは世界中に建てるべき内容です。だから、再創造の祈りをするということは、世界福音化が頭にないと成り立たないものなのです。そういう祈りをしましょう。

3) ローマに光の道しるべを建てて 237(5000)に絶対やぐらを建てることを祈る。

それで、その道しるべは結局はローマというところに道しるべを建てることになります。それで、神様はパウロに、「あなたはカエサルの前に立つ」ということを頻繁におっしゃいました。なぜローマが大切なのか、いまのローマはどこなのか、いろいろな議論がありますが、いまのローマは、大体先進国の方には237、5000未伝道種族の人々が入ってきているのでほぼそうではないかと思います。とにかくローマに道しるべを建てる理由は、237、5000未伝道種族の方に入っていく、そこにいのちの光を放つ道しるべを建てて、つまり絶対やぐらを建てるためなのです。ローマそのものが目的ではありません。このように世界中に道しるべを建てて、絶対弟子を見つけ出して、絶対やぐらを建てること、それを祈りの課題にして祈っていく。しかも皆さんが先に答えられれば、ここまで引っ張ってきて目の前で見えると思うのです。それをビジョンと言います。ずっと離れているものが目の前に来ているかのように。それでビデオとなります。ビデオの画面に出ている人々は、そこにいるものではなくて遠いでしょう。なのに私の目の前で見られるのではないのでしょうか。だからビデオと言うのです。ビジョン。祈りのうちにそのようになると思います。それが具体的に実現されていくようになります。そのために祈ることを再創造の祈りと言いますし、ローマ16:17-20まで見ますと、このような祈りをして、これが実現されているときに、サタンがあなたがたの前に跪くようになると言われています。そして、16:25-27を見ますと、そのとき神様が

永遠のときから隠されていることを示してくださり、また与えられるとなっています。それが再創造の祈りによって光の道しるべを建てることなのです。そして、そのことによって単に教会が成長するのではなくて、真のリバイバル、人を生かすことができるリバイバルが起こるようになります。リバイバルというのは成長につながるのでしょうかけれども、数の成長そのものをリバイバルというわけではありません。リバイバルは人が生かされることなのです。潰れていく教会が力を得て生かされていくことなのです。真のリバイバルが起こるようになります。これが神様が望まれることなのです。レムナント教会の信徒ひとりひとは、2025年、本当に最高に幸せだと自負して、光の神殿の回復、光の経済の回復、真のリバイバルの回復、この契約を握って、残された者の祈り、巡礼者の祈り、再創造の祈りの主人公になりましょう。難しいことは何もないのに、なぜこの祈りが難しいかと言いますと、自分がキリストによって救われて、自分の過去、外見、条件と関係なく永遠のいのちが与えられて、当たり前神様が私のものであり、神のすべてが私のものであるという、それほど私は貴重な神の子どもだという確信がないからです。自分はまだ頭の悪い、あまり性格の良くない人間として思っているから。あまり才能のない人、不器用な人間だねと思っているからなのです。嘘ではないでしょうけれども、正解ではありません。救いが何がわかっていないから。だから2部礼拝で救いが何かについてお話をしています。救いは皆さんのどうのこうのと関係なく、神様が一方的に愛をもって与えられたものです。皆さんのどうのこうのと関係なく、キリストによって永遠のいのちの賜物が私たちに与えられました。それに集中しないといけません。どれほどでしょうか。柳先生の言葉によりますと、がんを忘れるほど、病気が思い出せないほど集中するわけです。

結論を言いましょう。神様は世界福音化に用いられる伝道者を育てる、そこに答えを与えられること、そして、そのために3つの庭、金土日時代、黙想時代を開く教会に最高のものをもたらし、それで義人、弟子がいる現場に行くことを願われることを覚えて祈って、また献身していきたいと思えます。その中で「神様、私にある神の計画を示してください」と祈ってください。それが示されて間違っている、それをつかんだときにすべてが編集されて整えられることになります。必ずありますので。必ずあります。何も引っかかってはいけません。引っかかること自体が神の計画を見ることができなくなるのです。どんな傷があったのでしょうか。どんなに理不尽なことがあったのでしょうか。それを理不尽だと思ってる限りは、神の計画は見ることはできません。カルバリ山を通過して、そのすべてを土台にして神の計画はなんでしょうか。神様の願いは世界福音化なのです。皆さんがわかっているかどうか関係なく、皆さんが召されている理由は世界福音化です。そのためにまず残された者の正しい理解と感覚をもって、その祈りから始めるわけです。皆さんがどれほど貴重な存在なのかを忘れずに、それが刻印されるまでずっと祈ることを7つのやぐらの祈りと言います。そこから始まるわけです。

そこから始めるために、その前にいつもチェックしないといけません。イエスはキリストです。イエス様がなぜ十字架で死なれて復活なさったのか。私は誰なのか。イエス様を信じないといけいないのか。そこを確認して、そこをクリアして、何ものにも囚われることなく、7つのやぐらが私のものであり、本当に私の内側にしっかり丈夫に建つことを祈っていく、そこからスタートしましょう。必ず変わります。

#### (祈り)

恵み深い父なる神様ありがとうございます。私たちがわかっているその100億倍以上、私たちは愛して、私たちを尊いものにして、永遠のいのちの祝福を与えていらっしゃることを覚えて感謝申し上げます。だからこそ、私たちを通して、教会を通して、暗闇の世界を変える世界福音化の再創造の働きをなさうとしていらっしゃることを覚えて感謝申し上げます。そこに私たちが召されていることを感謝して、また確信を持って、そのために神様が許されましたその祝福の祈りを味わうことができる信徒としてひとりひとりを導いてください。感謝してイエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。